

[076_04]法政研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/16769>

出版情報：法政研究. 76 (4), 2010-03-05. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

内田 博文 教授 著作目録

著書

『現代刑法原論〔第三版〕』（共編著）

三省堂

一九九六年

『刑法学における歴史研究の意義と方法』（単著）

九州大学出版会

一九九七年

『市民社会と刑事法の交錯…横山晃一郎先生追悼論文集』（共編著）

成文堂

一九九七年

『刑法各論講義〔第三版改訂版〕』（共著）

有斐閣

二〇〇五年

『ハンセン病検証会議の記録…検証文化の定着を求めて』（単著）

明石書店

二〇〇六年

『求められる人権救済法制の論点』（単著）

解放出版社

二〇〇六年

『「市民」と刑事法…わたしとあなたのための生きた刑事法入門〔第二版〕』（共編著）

日本評論社

二〇〇八年

『現代刑法入門〔第二版補訂〕』（共著）

有斐閣

二〇〇八年

『日本刑法学のあゆみと課題』（単著）

日本評論社

二〇〇八年

論文

「フランス革命と刑法―フランス一七九一年刑法定典について―」

（愛媛法学六号）

一九七三年

「マラーと刑法」

（愛媛法学会雑誌一巻一号）

一九七四年

「〈特集〉 誤判救済と刑事再審／フランスの刑事再審制度」

（ジュリスト六〇一号）

一九七五年

「わが国における『ベンサム刑法理論』研究—『ベンサム刑法理論』のための一前提—」

『平場安治博士還暦祝賀・現代の刑事法学（上）』（鈴木茂嗣他編）有斐閣

「名譽と刑法」

『現代刑法入門』（中山研一編）成文堂

「戦後のわが国における近代刑法史研究（一）」

（神戸学院法学八巻四号）

一九七七年

「戦後のわが国における近代刑法史研究（二）」

（神戸学院法学九巻二号）

一九七七年

「犯罪者処遇の意義と動向—科学的・人道的な処遇の実現をめざして—」

『刑事政策を学ぶ』（森下忠他編）有斐閣

一九七八年

「戦後のわが国における近代刑法史研究（三）」

（神戸学院法学九巻四号）

一九七九年

「戦後のわが国における近代刑法史研究（四）」

（神戸学院法学一〇巻三号）

一九七九年

「自動車検問」

（増刊ジュリスト・刑事訴訟法の争点）

一九七九年

「戦後のわが国における近代刑法史研究（五）」

（神戸学院法学一二巻三号）

一九八一年

「比較再審法（一）フランス、（二）ベルギー」

『刑事再審の研究』（鴨良弼編）成文堂

一九八一年

「証拠調べ手続」、「公判の分離・併合・更新」、「最終弁論」、「簡易手続」

『ホーンブック刑事訴訟法』（田宮裕編）北樹出版

一九八一年

「大学の自治と警察権」、「盗聴器の使用とプライバシー」

『法学—実例による法学入門—』（山下末人編）法律文化社

一九八一年

「性と刑法」

『性の科学と人間性』（黒橋条一他編）晃洋書房

一九八一年

「犯罪捜査の比較法—その予備的研究—」

『フランスの犯罪捜査—』（法律時報五四巻九号）

一九八二年

「徳島ラジオ商殺し事件再審開始確定をめぐって」

（ジュリスト七九〇号）

一九八三年

- 「戦後のわが国における近代刑法史研究（六）」（神戸学院法学一四卷四号）一九八三年
- 「戦後のわが国における近代刑法史研究（七）」（神戸学院法学一四卷三号）一九八四年
- 「ペンサム刑法理論について一」（刑法雑誌二六卷一号）一九八四年
- 「戦後のわが国における近代刑法史研究（八）」（神戸学院法学一五卷一号）一九八四年
- 「証人適格」『演習刑事訴訟法』（高田卓爾・田宮裕編）青林書院新社一九八四年
- 「〈特集〉 続市民法論と実定法学／現代刑法理論の現状と課題
—「現代型犯罪」を中心として—」（法の科学一三号）一九八五年
- 「熊倉刑法学が問いかけたもの—「労働刑法」研究を中心として—」（法の科学一三号）一九八五年
- 「ペンサム刑法理論について二」（刑法雑誌二六卷三号）一九八五年
- 「ペンサム刑法理論について三完」（刑法雑誌二七卷二号）一九八六年
- 「戦後のわが国における近代刑法史研究（九）」（神戸学院法学一七卷二号）一九八六年
- 「戦後のわが国における近代刑法史研究（十）」（神戸学院法学一七卷四号）一九八七年
- 「エイズ報道と人権」『人権と報道を考える（法セ増刊・総合特集シリーズ三九）』日本評論社一九八八年
- 「刑法はなんのためにある」（法学セミナー三四卷六号）一九八九年
- 「近代刑事法の理念と現実—フランス革命二百年を機に—第一部理念の提示／
刑罰改革の論理を中心として」『柏木千秋先生喜寿記念論文集』（澤登佳人他編）立花書房一九九一年
- 「〈特集〉 子どもの権利条約発効記念／子どもの権利の保障・定着をめざして
—弁護士及び弁護士会に望むこと—」（自由と正義四六卷一号）一九九五年
- 「「犯罪と刑罰」の意義」『風早八十二先生追悼記念論文集』（吉川経夫他編）勁草書房一九九五年

「侵略戦争の答責の意味」

『無答責と答責―戦後50年の日韓関係』（寿岳章子、祖父江孝男編）御茶の水書房

一九九五年

「証人の尋問」

（別冊法学セミナー・司法試験シリーズ・刑事訴訟法II〔第三版〕）

一九九五年

「藤木刑法学について」

『変動期の刑事法学』（森下忠先生古稀祝賀（上））（斉藤誠二他編）成文堂

一九九六年

「（五〇〇号記念特集・第三弾）これからの刑事法をどうする（沖繩少女暴行事件）」

／事件の概要と論点

（法学セミナー五〇二号）

一九九六年

「（五〇〇号記念特集・第三弾）これからの刑事法をどうする（沖繩少女暴行事件）」

／強姦罪はどうあるべきか

（法学セミナー五〇二号）

一九九六年

「フランスの刑事鑑定制度」

『刑事鑑定の理論と実務―情状鑑定の科学化をめざして』（庭山英雄他編）成文堂

一九九七年

「刑事法の「国際化」について」

（刑法雑誌三七卷一号）

一九九七年

「刑法学における歴史研究の意義と方法」『刑法の諸相（中山研一古稀祝賀論文集四）』成文堂

一九九七年

「刑法の弁証法的解釈について」

『市民社会と刑事法の交錯―横山晃一郎先生追悼論文集』（内田博文、鯉越溢弘編）成文堂

一九九七年

「〈特集〉刑法総論がわかる／現在刑法総論を学習する意味と意義」（法学セミナー五一号）

一九九七年

「〈特集〉刑法総論がわかる／罪刑法定主義」（法学セミナー五一号）

一九九七年

「『超個人的法益』に対する罪の一考察」

『西原春夫先生古稀祝賀論文集第3巻』（曾根威彦他編）成文堂

一九九八年

「刑法における因果関係の証明」

『誤判の防止と救済』竹澤哲夫先生古稀祝賀記念論文集（井戸田侃他編）現代人文社 一九九八年

「団藤刑法学と死刑廃止論について」

『民衆司法と刑事法学』庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集（秋山賢三他編）現代人文社 一九九九年

「刑事法と「国民」概念」

『転換期の刑事法学』井戸田侃先生古稀祝賀論文集（浅田和茂他編）現代人文社 一九九九年

「企業、役職員の刑事責任について」『企業ビジネスと法的責任』（沢野直紀他編）法律文化社 一九九九年

「市民的治安主義」の拡大（コロキウム／権利運動と現代権力）社会的過程としての人権」

（法の科学二九号）二〇〇〇年

「特集」財産犯論／窃盗罪の保護法益」

（現代刑事法二巻四号）二〇〇〇年

「刑事法学教育論に関する一考察」

『刑事・少年司法の再生』梶田英雄判事・守屋克彦判事退官記念論文集（浅田和茂他編）現代人文社 二〇〇〇年

「危険の概念」

（ジュリスト増刊・刑法の争点〔第三版〕）二〇〇〇年

「薬物自己使用事犯の法的検討」

（厚生科学研究補助金『薬物依存・中毒者のアフターケアに関する研究』）二〇〇一年

「司法・矯正と医療・福祉等の交錯」薬物自己使用少年の処遇に関し」

（精神神経学雑誌一〇三巻三号）二〇〇一年

「特集」犯罪報道と人権／「犯罪」報道による人権侵害の現状と対策」

（刑法雑誌四〇巻三号）二〇〇一年

「世界の潮／ハンセン病訴訟―原告勝訴の意義―」 (世界六九〇号) 二〇〇一年

「緊急特集」 裁かれた「絶対隔離政策」ハンセン病訴訟確定／総論・

ハンセン病国賠訴訟と専門家の責任」(共著) (法学セミナー四六卷八号) 二〇〇一年

「人間回復／ハンセン病訴訟／真の解決のために―熊本地裁判決から一年―」

(世界七〇四号) 二〇〇二年

「ハンセン病訴訟の意義と課題」

『ハンセン病・排除・差別・隔離の歴史(第三刷)』(沖浦和光、徳永進編) 岩波書店 二〇〇二年

「刑事政策とNPO(シンポジウム)協同と連帯:二一世紀における民主主義法学の射程」

(法の科学三三三号) 二〇〇三年

「〈特集〉結果的加重犯の現代的課題／危険運転致死傷罪と結果的加重犯論」

(現代刑事法六卷一〇号) 二〇〇三年

「刑事立法過程の研究について」

『刑事実体法と裁判手続:法学博士井上正治先生追悼論集』九州大学出版会 二〇〇三年

「療養所における福祉と治安」

『ハンセン病をどう教えるか』(ハンセン病をどう教えるか)編集委員会編) 解放出版社 二〇〇三年

「〈特集〉構成要件論の再生／故意と錯誤」

(現代刑事法五卷四号) 二〇〇四年

「被害回復と再発防止のために―ハンセン病問題検証会議最終報告書と今後の課題―」

(部落解放五五〇号) 二〇〇五年

「〈特集〉ハンセン病検証会議／検証の結果は誰のもの」

(人権と部落問題五七卷一一号) 二〇〇五年

「差別事件の刑事裁判について—現行法は差別事件に対応できているか—」

(ヒューマンライツ二一三号)

二〇〇五年

「道路交通政策の展開と危険運転致死傷罪」

『危険運転致死傷罪の総合的研究…重罰化立法の検証』(交通法科学研究会編) 日本評論社

二〇〇五年

「危険運転致死傷罪の解釈」

『危険運転致死傷罪の総合的研究…重罰化立法の検証』(交通法科学研究会編) 日本評論社

二〇〇五年

「全患協運動と日本国憲法」

『小田中聰樹先生古稀記念論文集…民主主義法学・刑事法学の展望(下巻) —刑法・民主主義と法(広渡清吾他編) 日本評論社

二〇〇五年

「最終報告書・被害実態調査報告・胎児等標本調査報告」(共著)

『最終報告書』『被害実態調査報告』『胎児等標本調査報告』(ハンセン病問題に関する検証会議)

二〇〇五年

「特集」差別事件の動向と糾弾の法的検討／「差別糾弾闘争の法的根拠」

についての「考察」

(部落解放研究一六八号)

二〇〇六年

「鳥取県人権侵害救済推進及び手続に関する条例—批判に対する多角的検討」

(ヒューマンライツ二一五号)

二〇〇六年

「学術の周辺／科学と社会—ハンセン病強制隔離政策の検証」

(学術の動向二一卷八号)

二〇〇六年

「特集」人権擁護法制の現状と課題／人権擁護法制における主な論点」

(部落解放研究一七三号)

二〇〇六年

「地域健康危機管理事業と人権保障」

厚生科学研究報告書「平成一九年度地域健康危機管理事業…地域の健康危機管理を担う保健所職員等の資質向上に関する研究」

二〇〇七年

「牧野刑法学における社会政策と治安政策の接合について」

『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集・上巻』（三井誠他編）成文堂 二〇〇七年

「ハンセン病と日本国憲法」

『総説現代ハンセン病医学』（大谷藤郎監修・牧野正直他編）東海大学出版会 二〇〇七年

「鳥取県人権侵害救済推進及び手続に関する条例の見直しに関する意見について

（自らを表現すること）」（ヒューマンライツ二二九号） 二〇〇八年

「特集」法学入門二〇〇八（入門解説）／刑法入門」（法学セミナー五三巻四号） 二〇〇八年

「特集」基本原則から考える／刑事法解釈の基礎―はじめに―私たちにとって刑法の

基本原則とは」（法学セミナー五三巻六号） 二〇〇八年

「特集」開かれた療養所をめざして／療養所の将来構想について」

（福岡県人権研究所『リベラシオン』一三〇号） 二〇〇八年

「ハンセン病問題の検証と社会福祉分野における課題」

（鉄道弘済会社会福祉部『社会福祉研究』一〇三号） 二〇〇八年

「特集」ハンセン病問題基本法成立と今後の課題／違憲判決との溝を解消

―ハンセン病問題基本法の全体像とその評価―」（部落解放六〇六号） 二〇〇八年

「健康危機管理における強制と人権」

『新型インフルエンザ―健康危機管理の理論と実際』（岩崎恵美子他編）東海大学出版会 二〇〇八年

「差別防止に占める刑事法の役割」

『市民と刑事法（第二版）』（内田博文・佐々木光明編著）日本評論社 二〇〇八年

「再発防止検討会報告書」(共著)

『ハンセン病問題に関する検証会議の提言に基づく再発防止検討会報告書』

二〇〇九年

「精神科病院への「強制入院」は合憲か?—精神保健福祉法と心神喪失者等医療観察法を検証する—」

(部落解放六一五号)

二〇〇九年

「死刑について」

『日本社会と法律学—歴史、現状、展望—渡辺洋三先生追悼論集』(戒能通厚他編) 日本評論社

二〇〇九年

「患者の権利擁護を中心とする医療の基本法の法制化を」

(部落解放六二二号)

二〇〇九年

「医療『構造改革』と患者の権利」

『医療制度改革』と患者の権利—いのちの格差社会』(患者の権利オンブズマン編) 明石書店

二〇〇九年

翻訳・紹介

「Weber, Helmuth von 『行為概念の研究に就いての所見 (Bemerkung zur Lehre vom Handlungsbegriff)』(カールエンギッシュ記念論文集の紹介一六—)」(法学論叢八七卷六号)

一九七〇年

「フランス一七九一年刑法典(翻訳資料)—Code penal <25 Septembre-6 Octobre 1791>—」(共訳)

(立命館法學九六号)

一九七一年

「ネルソン 『フランツ・フォン・リストとスウェーデン刑法学』(Alvar Nelson; Franz von Liszt und die schwedische Strafrechtswissenschaft) (フランツ・フォン・リストへの追憶—ドイツ全刑法学雑誌第八一卷(一九六九年)三号(死後五〇周年記念号)から—)」

(立命館法學九九・一〇〇号)

一九七二年

「紹介」決定論と自由意思—Determinisme et Libre, Arbitre, en Diderot et l'Encyclopedie

par Jacques Proust, p.310 et suiv 1967, Paris.—」

(神戸学院法学七巻二号)

一九七六年

「紹介」Everett, C. W. 「ソクソム『法律学領域論』の分析」(The Limits of Jurisprudence Defined—Analysis)」

『西原寛一教授追悼論文集』(神戸学院法学七巻三号)

一九七七年

「紹介」ソクソム理論のソクソム(一)—Leslie Stephen, Bentham's Doctrine, in the English Utilitarians, vol.I, ch. VI, 1900.—」

(神戸学院法学八巻一号)

一九七七年

「グラマティカ・社会防衛原理」(共訳)

『グラマティカ・社会防衛原理』成文堂

一九八〇年

「ゲルハルト・ダイムリンク編『チェーザレ・ベッカリア／ヨーロッパにおける近代刑事司法の始祖』(一九八九年)(一): Gerhard Deinling (Hrsg.), Cesare Beccaria. Die Anfänge

Moderner Strafrechtspflege in Europa. Kriminologische Schriftenreihe Band 100.

一九九一年

Kriminalistik Verlag, Heidelberg.1989. I-VIII, S.1-223.」(共著)

(法政研究五七巻三三号)

一九九一年

判例評釈

「再審請求に対する審判手続—松山事件(仙台高決昭四八・九・一八判時七二一・一〇四)」

『刑事訴訟法判例百選(第三版)』(別冊ジュリスト五一号)

一九七六年

「訴訟条件と訴因(一)—親告罪の告訴(最決昭二九・九・八刑集八・九・一四七一)」

『刑事訴訟法判例百選(第四版)』(別冊ジュリスト七四号)

一九八一年

「別件逮捕と余罪の取調べ—神戸みなとまつり事件(神戸地判昭和五六・三・一〇判時

一〇一六・一三八)」

『昭和五六年度重要判例解説』(ジュリスト七六八号)

一九八二年

「不法入国と黙秘権（最判昭和五七・三・三〇刑集三六・三・四七八）」

『昭和五七年度重要判例解説』（ジュリスト七九二号）

一九八三年

「徳島ラジオ商殺し事件再審無罪判決（徳島地判昭和六〇・七・九）」（法学教室六三号）

一九八五年

「警察犬による臭気選別（広島高判昭五六・七・一〇判夕四五〇・一五七）」

『刑事訴訟法判例百選「第五版」』（別冊ジュリスト八九号）

一九八六年

「食品衛生法五条一項にいう「へい死した獣畜」に当たるとされた事例（最判平成二・五・一一）

刑集四四・四・三六三」

『平成二年度重要判例解説』（ジュリスト九八〇号）

一九九一年

「安楽死（名古屋高判昭三七・一一・二二判時一一五七・三）」

『刑法判例百選Ⅰ「第三版」』（別冊ジュリスト一一一号）

一九九一年

「暴行の意義（最決昭三九・一・二八刑集一八・一・三一）」

『刑法判例百選Ⅱ「第三版」』（別冊ジュリスト一一七号）

一九九一年

「安楽死（横浜地判平七・三・二八判時一五三〇・二八）」

『刑法判例百選Ⅰ「第四版」』（別冊ジュリスト一四二号）

一九九七年

「暴行の意義（最決昭三九・一・二八刑集一八・一・三一）」

『刑法判例百選Ⅱ「第四版」』（別冊ジュリスト一四三号）

一九九七年

「精神的機能傷害と傷害罪の成否（福岡高判平成一二・五・九判時一七二八・一五九）」

『平成二年度重要判例解説』（ジュリスト一二〇二号）

二〇〇一年

「法律の不知（最判昭三二・一〇・一八刑集一一・一〇・二六六三）」

『刑法判例百選Ⅰ「第五版」』（別冊ジュリスト一六六号）

二〇〇三年

「死者の占有（最判昭四一・四・八刑集二〇・四・二〇七）」

『刑法判例百選Ⅱ（第五版）』（別冊ジュリスト一六七号）
二〇〇三年

「暴行を受けて逃走した被害者が高速道路に進入し轢過され死亡した事案につき暴行と死亡との間に因果関係があると認められた事例について（最一決平成一五・七・一六刑集五七・七・九五〇）」

（判例時報一九〇〇号・判例評論五六〇号）
二〇〇五年

「無銭飲食・宿泊（最決昭三〇・七・七刑集九・九・一八五六）」

『刑法判例百選Ⅱ（第六版）』（別冊ジュリスト一九〇号）
二〇〇八年

学会報告・講演

「九州法学会行刑シンポジウム／新しい行刑の在り方をめぐって」（共著）

（法政研究五八卷二号）
一九九二年

「日本刑法学会第七一回大会ワークショップ／生と刑法」

（刑法雑誌三四卷一号）
一九九五年

「日本刑法学会第七三回大会ワークショップ／刑法における歴史研究の意義と方法」

（刑法雑誌三五卷三号）
一九九六年

「日本刑法学会第七四回大会ワークショップ／刑法における歴史研究の意義と方法」

（刑法雑誌三六卷三号）
一九九七年

「IVまとめ（第一回法曹養成の将来と大学・大学院教育）（大学教育と法律実務家養成）」

（法政研究六六卷四号）
二〇〇〇年

「日本刑法学会第七八回大会ワークショップ／刑事立法過程の研究」

（刑法雑誌四〇卷三号）
二〇〇一年

- 〔講演・報告記録編〕第三回大学評価セミナー（平成二二年四月実施）―事例報告（二）
- 評価委員の立場から／大学評価における評価の視点（大学評価研究二号） 二〇〇二年
- 〔触法精神障害者の処遇と精神医療の改善・総括コメント／真の被害者対策を〕
- 『触法精神障害者の処遇と精神医療の改善』（福岡県弁護士会精神保健委員会編）明石書店 二〇〇二年
- 〔ヘシンポジウム〕どう考える鳥取県人権救済条例の課題／「鳥取県人権救済条例」と
- 〔人権侵害救済法〕（共著）（ヒューマンライツ二二二二号） 二〇〇六年
- 〔全体講演〕人間の尊厳を取り戻すために／ハンセン病問題検証会議最終報告書にかかわって（部落解放・人権入門二〇〇六―第三六回部落解放・人権夏期講座報告書）
- （部落解放五六〇号） 二〇〇六年
- 〔ハンセン病問題から学ぶ』 『講演録・ハンセン病問題から学ぶ』 京都府人権啓発推進室 二〇〇七年
- 〔ヘシンポジウム〕差別の現状と人権救済法制度の確立／人権侵害救済法を求める（部落解放研究第四〇回全国集会報告書）（共著）
- （部落解放五七八号） 二〇〇七年
- 〔特集〕ハンセン病市民学会第四回交流集会の記録／「パネル」今、なぜハンセン病問題基本法か―「療養所の社会化」の意義を考えよう―（共著）
- （ハンセン病市民学会年報二〇〇八） 二〇〇八年
- 〔裁判員制度の実施を前に―刑事裁判を取り巻く社会情勢の変化を踏まえて―』
- 〔青年法律家』（青年法律家協会弁学会合同部会編）号外 二〇〇八年
- 〔隔離の百年を問う・東京集会・シンポジウム』（共著）（全療協ニュース九四八号） 二〇〇九年

その他

〔書評〕宮崎繁樹、五十嵐二葉、福田雅章編著『国際人権基準による刑事手続ハンドブック』
(法律時報六四卷五号) 一九九二年

〔書評〕中村泰次他著「刑事裁判と知る権利」―「知る権利」の保障を裁判制度上に具体化するために―
(法学セミナー三九卷五号) 一九九四年

〔夢〕
(人権のひろば一卷一号) 一九九八年

〔国会委員会参考人意見陳述〕
(参議院会議録第一四七回国会文教・科学委員会第八号平成一二年三月二三日) 二〇〇〇年

〔資料〕法科大学院構想と法曹養成教育の再構築(大学教育と法律実務家養成)
(九州大学大学院法字研究科司法改革問題検討ワーキング・グループ) (共著) 二〇〇〇年

〔新しい『国立大学法人』像について〕(共著)
(法政研究六六卷四号) 二〇〇〇年

〔新しい『国立大学法人』像について〕(国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議)
(『宿泊拒否』が投げかけたもの(ハンセン病シンポジウム③福岡)) (共著) 二〇〇二年

(読売新聞二〇〇三年一月二七日朝刊(西部本社版)) 二〇〇三年

〔検証会議副座長内田・九州大教授に聞く〕(毎日新聞二〇〇四年八月二〇日朝刊) 二〇〇四年

〔「検証会議」副座長・内田博文九大教授／私たちも加害者〕
(毎日新聞二〇〇五年三月二日朝刊) 二〇〇五年

「差別から脱却へ道は／ハンセン病検証会議が最終報告」(共著)

(朝日新聞二〇〇五年三月三日朝刊)

二〇〇五年

「ハンセン病国家賠償とメディア」

(聖教新聞二〇〇五年八月二三日朝刊)

二〇〇五年

「私の視点／ハンセン病提言実現のため検証会議を」

(朝日新聞二〇〇五年一〇月六日朝刊)

二〇〇五年

「ハンセン病問題の『善意』と『同情』」

(福祉新聞二二四八号)

二〇〇五年

「人権キーワード二〇〇六―三月／ハンセン病問題検証会議最終報告書」

(部落解放五六七号)

二〇〇六年

「内田博文さんインタビュー」

『差別とハンセン病』(畑谷史代著)平凡社新書

二〇〇六年

「ハンセン病問題から学ぶ」

『みちしるべ一四五号』日本郵政公社近畿支社人権啓発室

二〇〇六年

「裁判員制度について」(共著)

(週刊金曜日六八六号・六八七号)

二〇〇八年

「ハンセン病問題基本法について」

(全療協ニュース九三四号)

二〇〇八年

「争点論考／法科大学院の課題は」(共著)

(西日本新聞二〇〇八年七月一日朝刊)

二〇〇八年

「ハンセン病患者は、どうして何十年も隔離されてきたのですか?」、「伝染病に罹患した人は

どのような制約を受けますか?」

『Q&A医療・福祉と患者の権利(第二版)』(明石書店)

二〇〇九年

「争点論考／医療観察法の現状と改善」(共著)

(西日本新聞二〇〇九年三月六日朝刊)

二〇〇九年

「新型インフル／ハンセン病の教訓どこへ／患者排除した『予防』／検証会議副座長務めた九

大・内田教授に聞く」

(西日本新聞二〇〇九年六月五日朝刊)

二〇〇九年